

多様化が進む結婚観

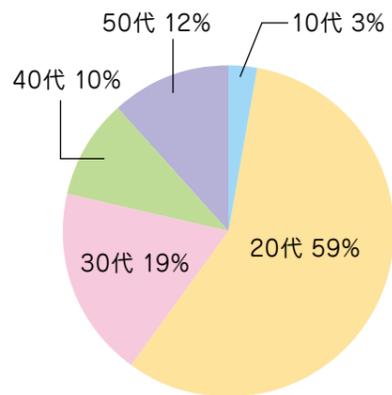
自分の人生を生きる

政府が発表した2022年度版「男女共同参画白書」では、婚姻歴がない30代の独身者は4人に1人が「結婚願望がない」と回答。若者を中心に、従来の結婚に対する意識が変わってきているようです。性の多様性や生き方の多様性など、さまざまな多様化が進む現代で「結婚観」をどう考えて感じているのか。今回は、市職員へのアンケートや、結婚支援に取り組む方へのインタビューなどを通じて、従来当たり前だとされていた結婚について考えます。

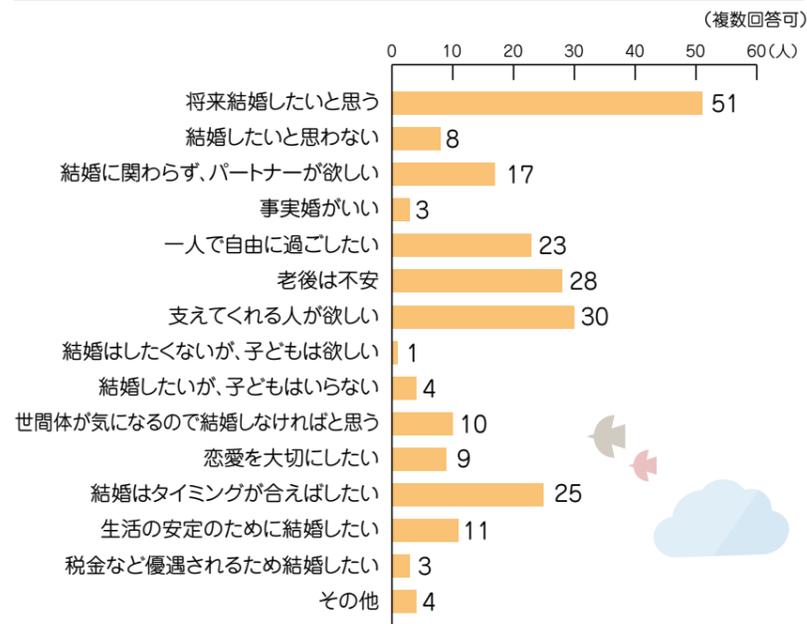
結婚観に関する島田市職員へのアンケート

対象：10代～50代の独身の職員
 アンケート方法：電子申請サービス「LoGoフォーム」によるWebアンケート
 回答期間：11月11日～11月22日
 回答数：102件

Q1 年代をお答えください



Q2 あなたの結婚観等に当てはまるものを選んでください



横山朋未さん
 ホット Cafe 店長
 結婚支援団体「ホットと婚」の代表

島田市の結婚支援団体「ホットと婚」を運営する横山朋未さんに、結婚観についてお聞きしました。

「結婚に求めるものは、まさに十人十色!だからこそ、面白いんです。」と、明るい笑顔でむかえてくれた横山さん。子どもは望まない人、障害のある人、ジェンダーフリーの考えを持つ人など、ここ数年は特に相談に来る方の背景も多様化しているといいます。

「『私って〇〇だから結婚に向かないかも』と思っている人でも、そこを相手が受け入れてくれさえすればOKなんです。」と、価値観も背景も多様化しているからこそ、マッチングの選択肢が広がっているという意外な現状を教えてくださいました。

結婚という形にとらわれない生涯のパートナーを求めての相談も受けるという横山さん。「まずはパートナー探しから始めてみるのもいいと思う。結婚する・しないも含めて、人生をどう生きていきたいかを考えることは大事なのでは。」と、話してくれました。

Q3 その他結婚観などに関する考えや意見があれば記入してください

(回答抜粋)

客観的に自身の恋愛や結婚について相談する機会が無く、自分にはどのような結婚が向いているのかもよくわからず、忙しさと機会が無いことを言い訳にして、恋愛や結婚に向き合うことをせずと先延ばしにしている。

一人暮らしより、誰かと同居する方が経済的かつエコなライフスタイルであり、何かあった時にも助け合えるので同居することにメリットは多いと思います。ただ、自分にとってそれは結婚と結び付きません。

良いパートナーが見つかったので早く結婚をしたい。



結婚となると、苗字を変えるなどの手続きが面倒くさいので、パートナーと今のままの関係でいいのかなと思う。2人の関係性は今も結婚後も変わらないと思うのに、国や行政基準での「結婚」と認められるための労力をかける価値が今は見つからない。

生活習慣のすり合わせが可能な相手ならば同居できるが、調整が難しくれば週末婚みたいな方がいい。



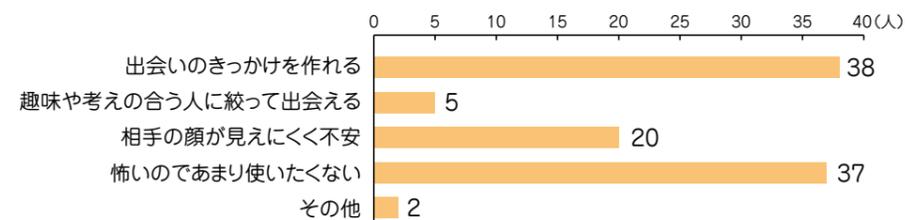
国が長期的な視点で子育てや教育支援に力を入れていない為、資金面で家庭への負担が大きい。また、将来を担う子供たちが幸せに暮らせるほどの環境を国が守れない可能性が高く、不安が多い。

結婚するしないは個人の自由



一人で困っておらず、かつ結婚はデメリットばかりであると感じている

Q4 マッチングサイトについての印象をお答えください



Q5 その他マッチングサイトに関する意見や考えがあれば記入してください

(回答抜粋)

社会人になってから強く感じるのは、圧倒的に出会いが少なくなるためマッチングサイトはよいきっかけになると思う。



マッチングサイトにはサクラがいるイメージがあるため、利用しようとは思わない。

息子は「マッチングサイトで探す方が、無駄がなくて良い」と言っている。趣味だとかを登録しておけば、候補者が狭まって良いと。

業と同じで、利用者次第で良くも悪くもなるサイトだと思う。



マッチングサイトやSNSの事件をよくニュースで聞くので、リスクを減らす取り組みが必要と考える。

上手く活用できる力があり出会いが欲しいのであれば利用すれば良いと思う。

性的マイノリティーからすると、同じ状況の方と出会うためにはそういうサイトがないとほぼ不可能に近いと考えます。

結婚に対する考え方「結婚観」も多様化しています。その中で「結婚したいのにできない」「結婚したくないのに結婚しなさいと言われる」など、本人の意思を尊重できない環境に苦しむ人もいます。世の中が多様化を受け入れ、誰もが自分の望む人生を歩めるようになるといいですね。

